

# 人事データ解析ポリシー

私たち、株式会社リクルートマネジメントソリューションズは「個と組織」双方の利益最大化に向けて人事データの解析を行い、企業（以下クライアント）の意思決定を支援することを目指しています。

本ポリシーを踏まえて、個と組織の科学をHRアナリティクスによって追求し、学生・従業員（以下カスタマー）の利益を見据えつつ、クライアントにおける人事データ利活用の支援を積極的に取り組んで参ります。

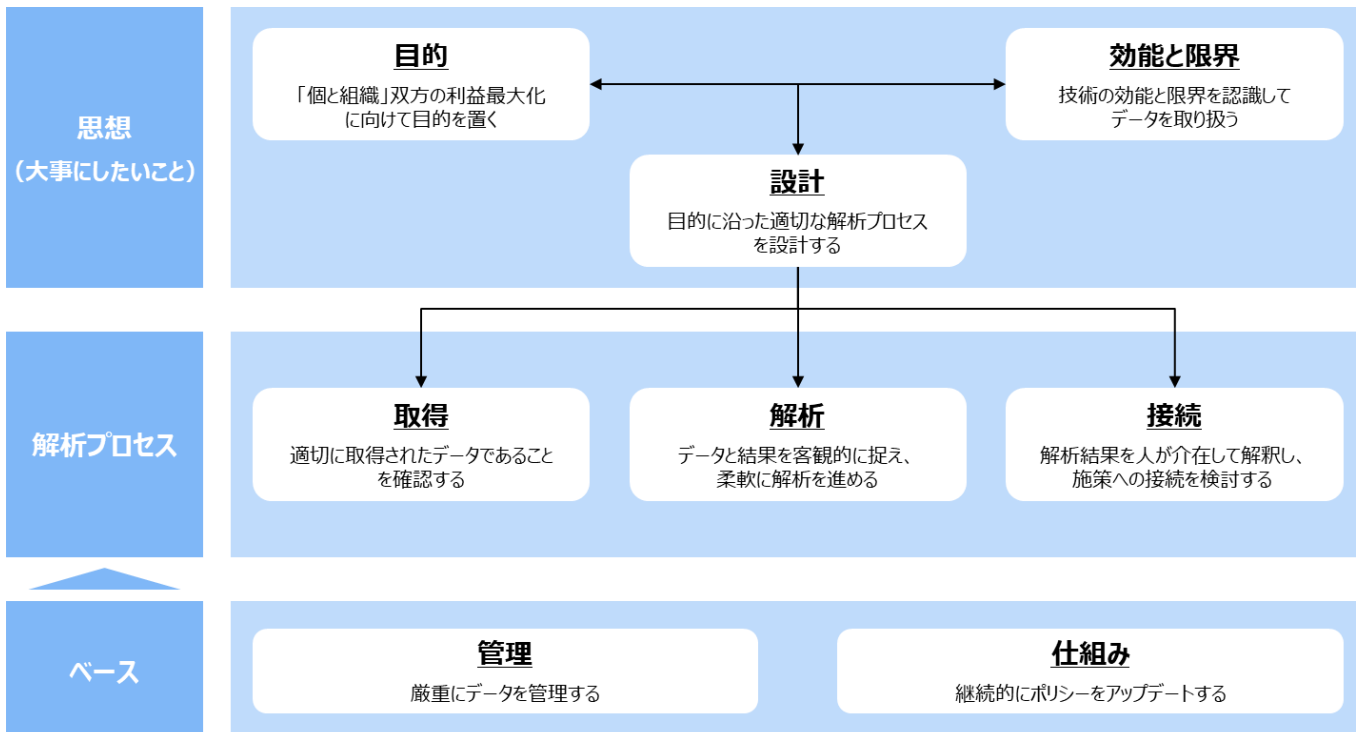
## ● ポリシー位置づけ

本ポリシーは、クライアントから委託を受けた「データの解析、施策全般への助言」を行うにあたり、私たちが大事にしたい考え方・姿勢の理解促進を目的として「人事データ解析ポリシー」として言語化したものです。なお、人事データ解析にあたっては、個人情報保護に関する法令や指針、個人情報保護マネジメントシステムJISQ15001およびプライバシーポリシーを遵守いたします。参考：プライバシーポリシー

<https://cdn.p.recruit.co.jp/terms/rms-t-1001/index.html>

## ● ポリシー骨子

私たちが人事データ解析を行う際には、思想（大事にしたいこと）を第一義に置きながらクライアントとすり合わせを行い、安全管理措置が施された環境・運用体制をベースに解析プロセスを進めて参ります。



## ● ポリシー詳細内容

前頁における骨子を踏まえて、各ポリシー項目の内容を以下のように規定しています。昨今の状況を踏まえて以下の観点を特に重視して取り組んで参ります。

- 組織のみならず個人の利益実現を目指す
- 人介在による解釈と判断を重視し、人権や差別等への影響のモニタリングと改善の努力をクライアントと共に継続していく

タイトル		概要
目的	<b>「個と組織」双方の利益最大化に向けて目的を置く</b>	人事データの利活用にあたっては、「個と組織」の双方の発展を志向し、その目的をクライアントとともに明確化する。個々のカスタマーに対する不当な差別や不利益につながらないように留意しながら、クライアントと明確にした目的の実現を目指す。
効能と限界	<b>技術の効能と限界を認識してデータを取り扱う</b>	信頼性・妥当性などに関する測定手法や解析技術の効能と限界を正しく認識し、目的に沿った科学的かつ適切なソリューションを提供する。
設計	<b>目的に沿った適切な解析プロセスを設計する</b>	使用するデータの特性や種々の制約条件を踏まえ、目的に沿った適切な解析プロセスを設計する。また、人事施策への接続までを視野に入れ、データ取得の公正さ、結果解釈のしかた、実施後の検証やブラッシュアップについても検討し、クライアントと合意する。
取得	<b>適切に取得されたデータであることを確認する</b>	利用目的や利用方法に関してカスタマーへの告知と同意の取得がなされ、適切なタイミングで収集されたデータを用いることをクライアントと会話する。人権やプライバシーを侵害する可能性のあるものは解析の対象とならないように配慮する。
解析	<b>データと結果を客観的に捉え、柔軟に解析を進める</b>	クライアントから提供されたデータはそのまま解析に用いることを原則とし、合理的な説明のできない選択や修正は行わない。また、解析結果をクライアントとともに客観的に解釈・評価し、必要に応じて解析手法や進め方の見直しを行う。
接続	<b>解析結果を人が介在して解釈し、施策への接続を検討する</b>	解析技術の限界の認識に基づいたサービス提供を志向し、アナリティクスやテクノロジーによる意思決定の自動化や代替を目指すことはしない。解析結果だけでなく、その解釈や判断根拠の明示が可能なサービス提供を行い、データのみからカスタマーの不利益になる意思決定がなされないようクライアントに働きかける。また、施策の効果検証やブラッシュアップの必要性などについても、クライアントとともに継続的に検討する。
管理	<b>厳重にデータを管理する</b>	クライアントの機密情報やカスタマーの個人情報、漏洩や紛失などが無いよう取り扱いルールに従って厳重に管理する。利用を終えた場合は、許可を得た研究目的への転用など特段の理由がない限りすみやかに廃棄・削除・消去を行う。なお、個人情報の消去は、個人を識別不能とする処理を含む。
仕組み	<b>継続的にポリシーをアップデートする</b>	本ポリシーは、事業責任者のもと、法的規制や社会環境の変化、HRM領域の潮流、ITを中心とする技術革新などを鑑みて、継続的にアップデートを重ねていくものとする。